

# ご存じですか！文化財

73

## 「慈眼寺外陣格間板絵」

市指定有形文化財 昭和56年3月9日指定



問合せ  
生涯学習課  
(☎0480・62・1223)



所在地 麦倉84-1

武蔵国(東京・埼玉・神奈川の一部)の風土や文化などを記した「新編武蔵風土記稿」によれば、慈眼寺は室町時代、永徳年間(1381)〜1383年)の有力者・小室氏の創建になると記されています。慈眼寺には市指定の文化財がいくつかありますが、今回は本堂天井の板絵「外陣格間板絵」を紹介します。

外陣格天井中央に龍格(93cm×54cm)を配し、百九面の板絵(40cm×40cm)には花鳥や鯉や亀など小動物が描かれています。龍格に「丸谷住人将

信」の墨書があり、隣接した丸谷村(現・群馬県板倉町)の絵師・将信の作と思われます。これらは、没骨法(輪郭を描かず画面に形と色を同時に描く技法)による描写を主とし、線をよくけて絵具を塗る彫塗りという彩色方法を用いた全体的にはさっぱりとした装飾画風です。

将信はその画風から、江戸中期の浮世絵師・奥村利信(奥村政信の弟子)の影響を受けているとみられます。慈眼寺が火災に遭い、再建が文化8(1811)年なので、その頃の作と思われる。



紹介者 渡辺 章さん(向古河)